巻頭言

西澤先生からの二回のお電話と一つの檄

一般社団法人日本放射線安全管理学会
（広島大学自然科学研究支援開発センター）
会長　**中島　覚**

本学会を立ち上げられ，初代会長を務められました西澤邦秀名古屋大学名誉教授，本学会名誉会員が本年1月9日にご逝去されました．本学会としては弔電と供花をいたしました．また，柴田先生をはじめとする名古屋大学の皆様のご尽力により西澤先生が従四位に叙されました．ここでは，西澤先生からの二回のお電話と一つの檄を記載して追悼するとともに巻頭言としたいと思います．

私どもの世代の先生方には，西澤先生からお電話をいただいた経験がある人もおられると思います．私が初めてお電話をいただいたのは，本学会の理事に立候補するようにとのものでした．それまで，アイソトープ総合センター長会議などの事業のお手伝いをしたことがあります．1995年に私がアイソトープ総合センターの専任教員になってそれなりに頑張って活動してきたことを評価いただいたようで大変晴れがましい思いがしました．初めて理事会に出席したときの晴れがましさは今でも記憶に残っています．もちろん私の能力には限りがありますので十分に仕事ができたとは思いませんが，西澤先生のお気持ちに応えようとはしました．

2回目のお電話をいただいたのは福島の事故があってすぐでした．松田先生は現地に向かわれるので，私が電話対応をするようにとのことでした．ご自身は，放射性ヨウ素・セシウム安全対策アドホック委員会を立ち上げられ，委員長として，水分析班，野菜分析班，内部被ばく分析班，被服分析班，土壌班，茶葉分析班を組織され，活動を開始されました．全国的に見ても素早い対応だったと思いますし，何が重要であるかも的確に判断されておられました．私は電話対応のメンバーを募り，活動を開始しました．今でも重苦しい中で活動を行っていたことを忘れることはできません．西澤先生は名誉教授になられて現場を離れておられましたが，現役の教員より状況をよく把握され，ご指示いただいたことを今でもありがたく思っています．退職後の生き方についてもサジェスチョンをいただいた思いであります．

電話対応の活動が一段落してからだと思いますが，福島の農家にご一緒しました．汚染米発現の機構を知ろうと田やその周りの環境の様子を見るときに発せられた，ベテランの刑事が犯行現場を検分するような気分であるとの話が思い出されます．このことがきっかけとなって福島事故後の放射性同位元素の環境中での移行の研究を開始することになりました．私どもの大学のフェニックスリーダー育成プログラムで学生を指導するにあたっても研究テーマの設定において貴重な体験となりました．

西澤先生には，日本放射線安全管理学会の仕事をすることにより，放射線安全管理学に導いていただきました．これは以前本誌にも書きましたが，後輩の教員に向かって，先生方はそれぞれの出身の専門にとらわれすぎている，という檄が大変心に残っております．今の大学は，昔の牧歌的な大学ではなく，必要以上に競争をあおりますし，場合によっては点数で教員を評価します．放射線安全管理の仕事は，教育や研究ほどには評価されないと感じる先生方も多いと思います．

私自身のもともとの化学分野での研究と放射線安全管理の研究をどのように展開するのか，どのように共存させるのかが私のテーマとなりました．それまでは自身の研究テーマを自身で限定していたところがありました．管理と研究の狭間でもがいているうちに，その境界のところに面白いものがあるとすら感ずるようになりました．両方を進めたことにより新しい風景が見えてきたように

思っています．会員の皆様の状況は様々かと思います．自身の研究がメインで最低限の放射線管理に携わる人から，ほぼ100％放射線管理に携わる人まで，様々かと思います．それぞれの状況において自身の研究と放射線管理を進めていただきながら新しい境地を開いていっていただくしかないと思っています．少し目を外に向ければ，大谷選手のように二刀流をさわやかにやってのけている若者がおり，世の中を明るくしております．そんなところに西澤先生の檄への回答が見いだせるような気がしています．

巻頭言